

北海道価値創造パートナーシップ会議 in 岩見沢
～新たな北海道総合開発計画に向けて～

いわみざわ公園バラ園での取り組みと
北海道ガーデン街道への提案について

いわみざわ公園バラ園
石渡 杏奈

●いわみざわ公園バラ園へようこそ



北海道岩見沢市の南東部の丘陵地帯に約183ヘクタールの広さを持つ、大規模都市公園であるいわみざわ公園。その一面に約4ヘクタールのバラ園が広がっています。平成6年に開園し、バラや施設の老朽化に伴い平成23年より再整備を行い、市開基130年記念とバラサミット開催に合わせて平成25年にリニューアルオープンしました。

「誇り高き北国のバラ園を目指して」というコンセプトの基、北海道の気候にあった耐寒性と無農薬栽培に有利な強健性を持った品種構成で、現在約650品種8800株のバラとハマナスを鑑賞することができる、道内最大級のバラ園となっています。剣弁高芯の大輪花が魅力のハイブリッドティーローズからクラシカルな花形と香り豊かなオールドローズ、野趣溢れる原種系までバラの多様性を堪能でき、他にも宿根草のガーデンや春一番を彩るスイセンの小径など、今後益々ガーデンとしての魅力が高まっています。また、日本では一般的に入手可能なバラ苗の品種は需要度合いに左右され、本州の気候重視の流通が多いのが現状です。寒さの厳しい北海道では冬期間に枝枯れする危険がありますが、耐寒性についての情報は少なく北海道での品種の耐寒度や強健度の情報を求めている愛好家も少なくありません。そこでバラ園では、平成27年からテストガーデンの整備を開始し、無農薬、無施肥での栽培試験データを収集することで、施設利用の品種の見極めはもちろん、市内の緑地帯での利用や道内のバラの愛好家へ貴重な情報発信ができるような取り組みを始めています。



半年間雪に埋もれてしまう北海道ですが、園内にある室内公園「色彩館」は1年を通して花や緑を楽しむことができます。特に大温室の冬から春にかけては、まるでイギリスのウィンターガーデンを訪れたような空間で、4月の下旬頃からは、外よりも2ヶ月早く高さ4mを誇る道内最大のつるバラ約20品種が見頃を迎えます。

そして、年間5万株の一年草を市内公園や町内会に生産・出荷し、また、園内装飾や販売する花苗の生産を行うバックヤードとしての役割を担い、バラ園と色彩館を裏方で支えるのが花と緑の供給センターです。



この3つの施設を合わせて「いわみざわ公園バラ園」です。

●環境問題への配慮



バラ園の大きな取り組みのひとつとして、無農薬栽培への挑戦があります。

バラは花木の中でも病害虫がつきやすい植物で、これまでは一般的にバラには化学農薬を使用するのが常識でしたが、これからは抵抗力の弱い子供やお年寄り、薬剤に敏感な方にやさしく、有益な虫や微生物などの環境にやさしく、管

理する人間の健康への負荷の軽減に配慮すべきだという考えの基、虫の活動が活発になる5月中旬から9月中旬頃までは化学農薬を散布せずに、週1回の植物由来の害虫忌避剤と微生物活性剤の散布などで病害虫を予防する管理を行っています。化学農薬を使用しないため、虫を完全に排除することはできませんし管理手間は増えましたが、バラの香りが農薬の臭いがしないバラ園はバラの香りも一層良いと評判です。

また、リサイクル事業で市内で発生する伐採木を利用して生産しているウッドチップは、花壇のマルチング材として利用することで景観上だけでなく、泥の跳ね返りを防いだり、雑草の発生を抑えるなど病害虫が増えにくい環境づくりや、市内のゴミの減量化にも大きく貢献しています。マルチング材の他にも、園内で出た落ち葉を使った落ち葉堆肥や市内街



路樹などの夏剪定枝を使った堆肥なども生産しています。リサイクル事業にはコストがかかりますし、需要と供給のバランスや機械のキャパシティなど課題も多く残っていますが、課題を克服できれば理想的な循環システムが生まれるでしょう。

●北海道ガーデン街道への提案



大雪～富良野～十勝を結ぶガーデン街道は、近年人気の観光ルートとして定着しており、いずれのガーデンも北海道独自の気候や景観を生かした個性に溢れ、自然の風景や山並み、アクティビティーを楽しめるとともに、豊かな食も充実した観光ルートです。ところが旭川～札幌～千歳空港間を結ぶ国道12号線、234号線のラインにも個性豊かな多くのガーデンが点在しているにもかかわらず、こちらは残念ながらガーデン街道には組み込まれていません。このルートを組み込むことで、多彩な「北海道ガーデン」をもっと多くの方々に楽しんでいただけるのではないかと考えます。

北海道は大変広く、地域で大きく気候も異なり、そこでしか見ることができない風景というものがまだまだ沢山あります。しかし、例えば岩見沢市に北海道らしさを大切にしたらこんなに素晴らしいバラ園があるということを知らないという方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。是非北海道ガーデン街道において、北海道全体を大きなガーデンとして全道各地に存在するガーデン施設を紹介・PRするため、新しいルートの開拓の検討を提案いたします。